

新たな病害虫発見時の連絡と同定依頼について

国内に未発生¹の重要病害虫や国内の一部地域のみ²に発生する重要病害虫が新たな地域に発生した際には、農作物に甚大な被害を与えることがあります。このような重要病害虫による国内農業への影響を軽減するためには、それらの病害虫を早期に発見し、的確な防除を迅速に講ずる必要があることから、各都道府県の病害虫防除所や植物防疫所において重要病害虫の侵入警戒調査を実施しております。

的確な防除を迅速に実施するためには、日頃から担当する地域に発生する病害虫の種類とその被害などに関する情報収集に努め、万が一新たな重要病害虫の発生があった際には、発見された病害虫の正確な同定と被害状況などの情報収集を迅速に行い、検疫措置及び防除措置の検討を早期に開始する必要があります。このため、新たな病害虫を発見した場合には、植物防疫所に対して、

病害虫の発生や被害に関する情報を積極的に提供頂きますようお願いいたします。

また、植物防疫所では、輸入検査や国内で発見される様々な病害虫の同定が迅速に行えるように同定診断体制を整備しています。新たな病害虫や同定困難な病害虫を発見した際には、植物防疫所が同定に協力いたしますのでご相談ください。

同定依頼は、最寄りの植物防疫所あてに電話にてお願いいたします(連絡先はホームページを参照してください)。実際に同定依頼する病害虫の標本の送付にあたっては、送付方法を打ち合わせた後、宿主植物、採取年月日、採取場所、採取者、標本数などの同定に必要な情報を添えて送付してください。なお、同定が困難な場合は、外部の専門家に同定結果を照会することから、同定に長時間を要する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

各国で被害の拡大をみせるネコブセンチュウの一種 *Meloidogyne enterolobii*

Meloidogyne enterolobii は、中国海南島^{ハイナン}で発見され、1983年に新種として記載されたセンチュウである。*Meloidogyne* 属の主要4種とされるサツマイモネコブセンチュウ、アレリアネコブセンチュウ、ジャワネコブセンチュウ、キタネコブセンチュウ以外は、寄主範囲が狭いとされているが、本種はこれまでに数多くの植物に寄生することが確認され、現在も正確な寄主範囲は特定されていない。また、サツマイモネコブセンチュウ等に抵抗性を持つトマト、ダイズ、サツマイモの品種でも増殖することが知られている。

なお、近年各国で本線虫による被害が拡大しており、ヨーロッパ・地中海地域植物防疫機関(EPPO)は、同地域への侵入・まん延の危険性が高いとして、2008年5月に本種を検疫の重要有害線虫に指定した。

本種は我が国未発生であり、侵入した場合、施設園芸作物を中心に被害の及ぶことが予想されることから、我が国としても十分な注意が必要である。

*Meloidogyne*属の他の線虫と同様、本種は、第2期幼虫が寄主植物の根に寄生してこぶ(ゴール)を形成し、生育を阻害したり、枯死を引き起こす。

増殖率が高く、寄主植物に大きなこぶを形成させるため被害は大きい。

本種は、これまでアジア、アフリカ、中・南米に分布することが知られていたが、最近アメリカやヨーロッパの一部でも発生が確認された。このうちスイスでは、温室におけるトマト及びキュウリの被害が甚大で、汚染地域の特定に向けた調査が行われている。またアジアでも、ベトナムの柑橘園に混植されていたグアバに生育阻害や枯死が見られたため調査したところ、本種の被害であることが近年確認されている。

また、EPPOは、1988年に記載された*M. mayaguensis*を本種のシノニムとする報告を採用しており、本稿もその取り扱いに従った。

(出典：http://www.eppo.org/QUARANTINE/Alert_List/nematodes/meloidogyne_enterolobii.htm)

発行所 横浜植物防疫所

発行人 川口 嘉久

編集責任者 金田 昌士

掲載 植物防疫所ホームページ <http://www.maff.go.jp/pps/>